

0 2

「環境未来都市」構想推進協議会

「環境未来都市」推進協議会とは

「環境未来都市」構想推進協議会について

平成20年12月14日に低炭素都市推進協議会が設立されましたが、その後、平成24年5月に、環境モデル都市の概念を基に、高齢化対応を必須とした「環境未来都市」構想を推進するために、低炭素都市推進協議会を発展的に改組し、「環境未来都市」構想推進協議会となりました。

人類共通の課題である環境や超高齢化対応を解決する成功事例を創出し、全国へ展開・波及させることで持続可能な経済社会づくりの推進を図り、優れた取組を世界に発信することを目的として本協議会は活動しています。

環境未来都市や環境モデル都市を先頭に、環境や超高齢化などに対応した都市・地域づくりに意欲のある市区町村、道府県、関係省庁、政府関係機関、民間企業などが構成員となっており、取組成果や施策情報の共有、相互啓発を実施しています。

参加構成員 260団体 (平成29年7月31日現在)

市区町村	116団体
道府県	46団体
関係省庁	11団体
関係政府機関	30団体
民間団体	57団体

【平成29年度協議会会長：北九州市長 北橋健治】

「環境未来都市」構想推進協議会の活動

「環境未来都市」構想パンフレットの作成

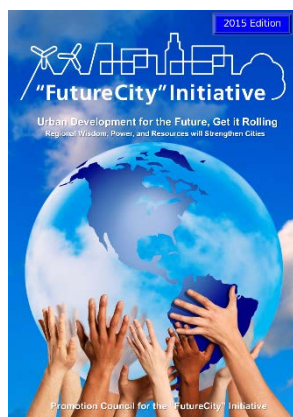
このパンフレットは、「環境未来都市」構想の推進に関するこれまでの活動や環境未来都市、環境モデル都市、協議会構成員の先進的な取組を掲載するものです。

内閣府と本協議会が主催する「環境未来都市」構想推進国際フォーラムや、その他展示会等のイベントで広く一般に配布しています。

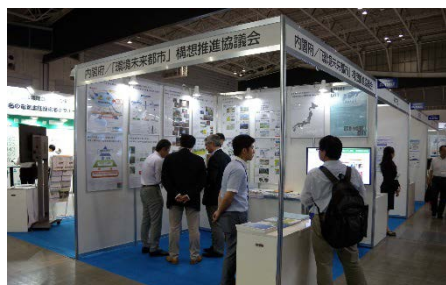
日本語版及び英語版の2種類のパンフレットを作成し、国際フォーラム等に來られる海外の方にも配布することで、「環境未来都市」構想の国内外への普及に努めています。



日本語版パンフレット



英語版パンフレット



「環境未来都市」構想の普及を行う協議会ブース



環境展示会で取組の普及・展開

環境展示会への出展を通じて、環境未来都市・環境モデル都市の先進的な事例や幅広い活動について紹介しています。平成28年度は2つの展示会に出展しました。

【エコプロ2016】

国内最大級の環境・エネルギーの総合展示会である「エコプロ」に例年出展しています。平成28年度は、会場に「環境モデル都市・環境未来都市ゾーン」を設けて、環境未来都市・環境モデル都市の8自治体とともにブースを展開し、本構想の趣旨とそれに基づく各自治体の取組を紹介しました。また、ブース展示に加えて実施したステージイベントでは、各自治体の現場担当者にご登壇いただき、地域資源を生かした産業振興等にかかるトークセッションや、最新の取組成果の発表を行いました。

【第11回再生可能エネルギー世界展示会】

平成28年度は、日本から世界に向けて再生可能エネルギーに関する最新情報を発信する「再生可能エネルギー世界展示会」においても、環境未来都市・モデル都市3自治体とともに本構想ブースを出展し、本構想の考えとその具体的事例について情報発信を行いました。

「環境未来都市」構想推進協議会 ワーキンググループとは

「環境未来都市」構想推進協議会ワーキンググループ（WG）は、構成員から提案されたテーマをもとに、実務者レベルで議論を行うことで、現在直面している課題の解決と、各種施策の更なる発展のために、開催している勉強会です。

平成28年度は新たに5つのWGが立ち上がり、活発な議論が行われました。

【循環型社会の形成に向けた 資源活用施策推進WG】



リユースの意義について、有識者から海外の情報や経済学視点から紹介いただきました。

また、市民の不用品リユースの取組について、鯖江市及びヤフー株式会社から事例紹介があり、循環型社会形成のための取組について理解が深まりました。

【都市が中心となった「持続可能な開発目標 (SDGs)」検討WG】



持続可能なまちづくりのため、自治体レベルでSDGsにどのように取り組んでいくかについて活発な意見交換を行い、SDGsを自治体をはじめ企業・団体や市民の方に広く知ってもらうための契機となりました。

【官民連携による地域エネルギービジネス 創出と持続可能なまちづくり検討WG】



地域新電力事業の先進事例についての講演を通じて、そのノウハウや、各地域特性に応じた取組などについて共有しました。

また、講演者も参加してのグループディスカッションを行い、経験談を交え、地域や組織の実情に即した活発な意見交換を行いました。

【低炭素社会と活力ある超高齢社会を 両立させる将来ビジョン検討WG】



4つのモデル地域について、現在置かれている状況や地域資源と、将来実現が予測される科学技術との組み合わせにより、様々な視点から将来ビジョンを議論しました。

【地域の課題解決に向けた ICTの活用検討WG】



ICTの活用事例について、富山市のコンパクトシティ戦略における先導的な事例を講演を通じて共有しました。

また、参加者には、データ分析を施策立案に活用できる都市計画システムのデモを見ていただくなど、ICT活用の可能性を感じていただきました。

【民間活力による分散型エネルギー導入推進WG】【環境・社会・経済の3つの価値の創造検討WG】



電力事業者と飯田市が共同で建設した太陽光発電所「メガソーラーいいだ」の見学施設

再生可能エネルギーをはじめとする「分散型エネルギー」の導入による都市・地域づくりについて、情報共有を行いました。

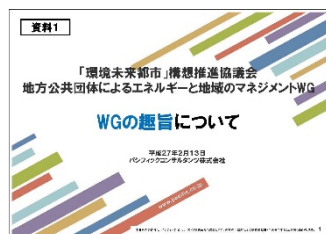
現地視察もあり、低炭素社会の実現に向けて自治体・市民・事業者が一体となるまちづくりを実際の施設を見学しながら学ぶことができました。



各自治体が持続可能なまちづくりについて議論を行いました。

海外都市の事例紹介や、北九州市、浦添市で実際のまちづくりを学ぶ現地視察など、多くの事例を取り入れたことにより、大変な盛り上がりを見せました。

【地方公共団体によるエネルギーと地域のマネジメントWG】



新電力・エネルギーマネジメント事業、バイオマス資源の活用という、2つのテーマで開催した参加型WGは、団体間の情報ネットワークの構築の一助となりました。

【全国展開型ベストプラクティス普及促進WG】



平成22年度に協議会構成員が実施している活動の中から、優れた取組（ベストプラクティス）を選定しました。

このWGでは選定された取組の成功事例の分析を行うことで多数の構成員が新しい事業の導入に役立てました。

【都市・地域低炭素化施策推進WG】



都市単位、地域単位で低炭素化を進めるため、その環境性能評価手法の構築を目的に開催しました。

このWGでは、同様の課題認識を持つ市区町村等が協同し、低炭素都市の実現に向けた研究を進めました。

【グリーン・エコノミーWG】



低炭素化に向けたまちづくりを通じ、地域経済活性化モデルを構築するために開催しました。

このWGの活動により、地域活性化・低炭素効果等について優れた事例を集めた事例集を作成しました。